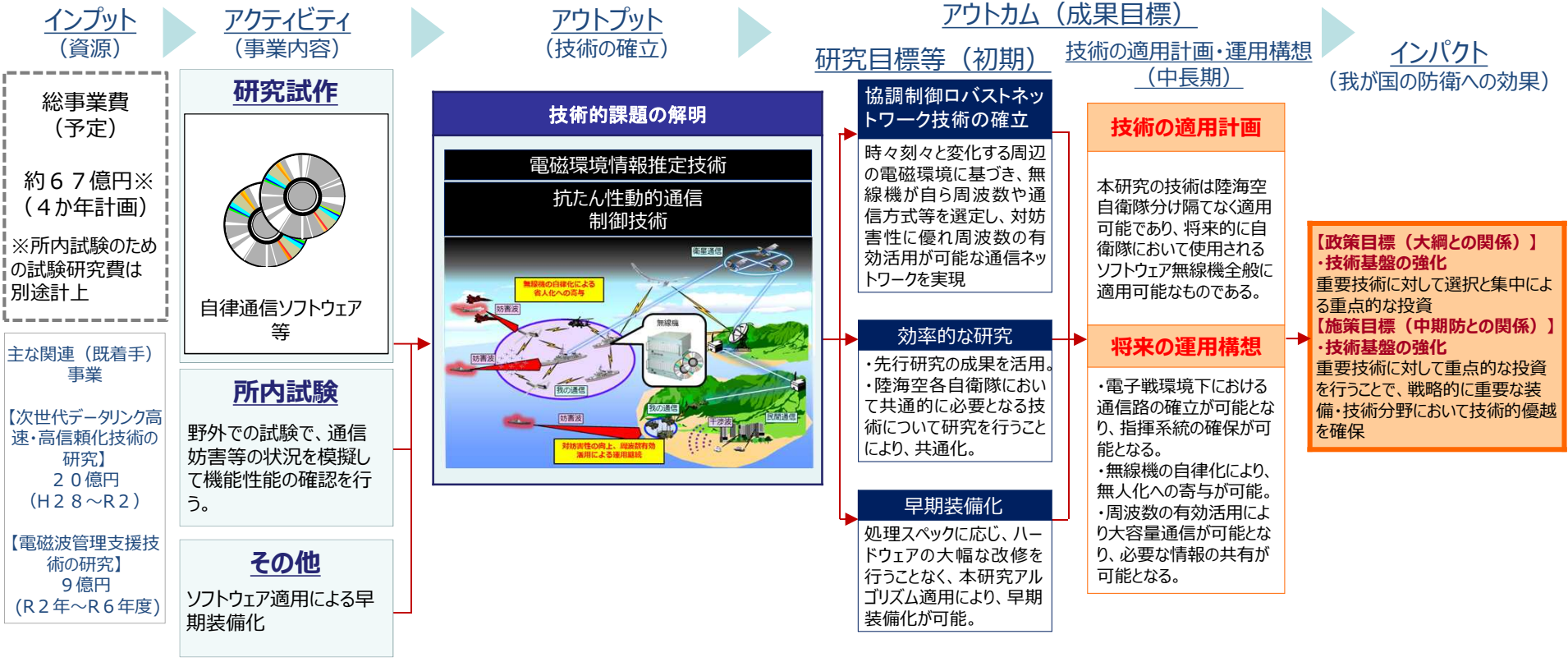


ロジックモデル(協調制御ロバストネットワーク技術の研究)

【事業の概要】

時々刻々と変化する周辺の電磁環境に基づき、無線機が自ら周波数や通信方式等を選定し、対妨害性に優れた周波数の有効活用が可能な通信ネットワークを実現化する協調制御ロバストネットワーク技術を確立する。

現状・課題 我が国を守るためには情報収集及び指揮統制が必要であり、その手段として通信ネットワークが必須である。グレーゾーンの事態や有事において我が国への侵攻を企図する敵は、これらを阻害するため電波妨害を行う。従って対妨害性を有した通信ネットワークの確立が必要不可欠である。現状では、周波数の有効活用がされていないため、現有の対妨害技術の効果は限定的である。従って、本事業において周波数を有効活用し、対妨害性に優れた技術の確保を行う。



<研究開発実施線表>

年度	令和5	6	7	8	9
実施内容	← 本事業 (研究試作) →			← 所内試験 →	

総合評価

無線機が自ら周波数や通信方式等を選定し、対妨害性に優れた周波数の有効活用が可能な通信ネットワークを実現するための研究に取り組むことは妥当である。
 また、先行研究の成果を十分活用し、既存ソフトウェア無線機にインストールすることを可能とすることで、研究開発の効率化による早期装備化が期待できることから、本事業に着手することは妥当であると判断する。